

とらうべ通信

2015. 新年度号
No.74

発行所：(社)香川県助産師会 高松市春日町 1176

発行責任者：眞鍋 由紀子

☎：087-844-4131

FAX：087-844-4130

新年明けましておめでとうございます



～会長便り～

会長 眞鍋 由紀子

初春のお慶びを申し上げます。

新しい年を迎えて、会員の皆様にはご家族の方々と楽しいお正月を過ごされている方、また、お仕事で正月気分を味わっていない方々おられることと思います。

昨年は「助産師のほっと相談室」を軸に多くの事業を受け入れ、皆様の力を注いで戴き各事業がそれぞれに盛大に実施することができた事に、深く敬意を表する次第であります。

この様に、地域の母子保健事業に力を尽くしている助産師会は日本の中でも特筆すべきことではないかと思えます。というのも昨年は日本助産師会産褥ケア研修会での報告に始まり、広島での中国・四国地区助産師研修会・近畿地区助産師研修会・愛媛での母子保健知識普及員養成研修会での報告と4か所で香川の地域に密着した活動について、多くの人に広報させて頂きました。それぞれの会場で香川の会員の皆様の活動について、称賛して下さいました。これも一重に会員の皆様の活動の賜と誇りに思います。今年も昨年同様よろしくお願いいたします。

さて、今年は助産師界にとって大きく変化するであろう助産師のクリニカルラダーについて動きがあります。現在の状況について本稿の中に記事があります。また、日本看護協会助産師職能に関するホームページを参考に抱きたいと思えます。

また、7月には横浜で ICM アジア太平洋地域会議・助産学術集会在開催されます。各県2題は論文・実践報告等を出して下さいという事でしたので応募して下さい方もおられることと思いますが、横浜でアジア・太平洋地域の助産師達とお会いできることを今から楽しみに待ちたいところです。



今年は色々と楽しみな事、やらなければならない事がたくさんありますが、お互いに健康に留意しながら頑張りたいものです。

平成 27 年 8 月から助産実践能力認証が始まります

(クリニカラダーレベルⅢ：院内助産が自律して行える)

公益社団法人日本助産師会を含む助産関連5団体で協議をすすめ創設されました。良質で安全な助産ケアの提供と助産師個々のキャリア開発、そして社会や組織が助産師の実践能力を客観視できる助産実践能力の保証となる認証制度です。認証申請にあたっては臨床実践能力の証明や研修の修了証が必要です。皆さん、計画的に申請の準備を始めましょう！

「レベルⅢ」認証申請要件は以下の内容です。助産師会の研修でも一部計画しています。

分娩介助 100例以上	分娩期のモニタリング(分娩監視装置)に関する研修
妊婦の健康診査 200例以上	出血時の対応に関する研修
新生児の健康診査 200例以上	フィジカルアセスメントに関する研修
産褥期の健康診査 200例以上	陣痛促進剤・輸液ポンプのしよに関する研修
プライマリーケース 20例以上	記録に関連した研修
新生児蘇生法(NCPR)Bコース以上認定証	倫理に関連した研修
学術集会参加記録(発表は抄録コピー)	助産師および後輩教育等に関連した研修



第18回「いいお産の日」を開催して

高松会場 実行委員長 三好順子

今年のいいお産の日は、香川県子育て支援課と助産師会との同日開催で、妊娠・出産相談支援強化事業としてシンポジウムと産婦人科医・小児科医・助産師相談コーナーを子育て支援課が主催、助産師会が体験コーナーを主催しました。連休最後の日、久しぶりに晴れた日でした。昨年より少なかったですが、157名（67組）の方をお迎えしました。

シンポジウムは、香川県の妊娠・出産支援の取り組みについて子育て支援課による発表、病院・産院・助産院・地域の

施設の特徴・助産師の活動についてそれぞれの代表が発表しました。会場からは、妊娠中お腹がはる・2人目には完母で行きたいがどうしたらいいか・施設のことをもっと詳しくなどたくさんの質問がありました。パネラー方も丁寧に答えてくださり、シンポジウムで聞けなかったことを、後の体験コーナーで施設の助産師と直接話していました。コーナーには担当する施設名を表示していたので、自分がお産をする施設の助産師と直接話すことができ、安心したという声がありました。医師・助産師の相談コーナーは専用の部屋を用意しましたが、入りにくかったようで途中から大会場に移すことで相談者が気軽に利用できるようになりました。また、行政の強化支援は、女性やその家族に心強いものでした。

体験教室や各ブースは、今年も大勢の方が参加され、閉会間際までに熱心に参加されていました。今回設けた乳房ケアコーナーもケアを受ける方で予約枠いっぱいでした。また、会場には小さい子供さんと一緒に参加する方が多く、お母さんが教室に参加する間スタッフが乳児を預かったり、シンポジウム中に急きょ会場後方に木の玩具でおもちゃコーナーを作って遊べるようにするなどがありました。アンケートでは託児コーナーを希望する声もあり、子供連れの方が参加しやすい工夫も必要と思いました。

助産師は妊娠・出産・育児を通して関わる身近な存在です。少子高齢化の社会が進行する中、妊娠・出産・育児に切れ目のないサポートをより求められています。いいお産の日を妊娠・出産・子育ての情報提供や交流の場とし、“いいお産・みんなで子育て “いのち応援をしていけたらと思います。

最後に実行委員長として至らないところばかりでしたが、たくさんの方から助言やサポートをいただきました。無事開催することが出来、感謝いたします。ありがとうございました。



たくさんのご協力
ありがとうございました。



「

「悪天候ながらたくさんの参加があり、ひと安心」



西会場 実行委員長 起 えりこ

「第18回いいお産の日」は平成26年11月9日10時～15時まで、2回目の丸亀ひまわりセンターで開催しました。今年度は、時折激しく降る雨模様で赤ちゃん連れのお母さんにとっては、お気の毒な空模様になってしまい、午前中の出足は悪くなってしまいました。今年も前日に半日かけて準備したのですが、当日細かいところの修正とか、飾りつけなどスタッフ全員一丸となって動いていただけましたので、準備は完璧にできました。

今年から、四国おとなとこどもの医療センター附属看護学校の生徒さんに加え、尽誠学園の生徒さんも加わり学生さんと先生方で51名の参加も嬉しいことでした。また来場者も雨天にも関わらず202名とたくさんして頂きました。

メインイベントは香川県主催で『みんなで語ろう！妊娠・出産・子育て』のフリートークではグループに分かれ意見交換をしました。その他、沐浴体験・骨盤クラス・マタニティヨガ・妊婦体験・各種相談コーナーなどいずれも盛況で参加者に満足して頂きました。

今回、各市町村での母子保健の取り組みをチラシ、パネルで紹介するコーナーを作り、展示できたことは良かったと思います。香川県共催という大きな後押しもあり、雨天という悪条件にも関わらずお客様、世話役合わせ総数292名で開催できたことは、関係者一同誠に嬉しい限りで、感謝しています。



研修会報告

「助産の技の伝承」

報告 佐藤恵美子（恵生産婦人科医院）

9月7日開業助産師の篠原氏、眞鍋氏、池添氏、松本氏を講師に「助産の技の伝承」というテーマで研修会が行われました。

篠原氏からは妊婦健診の検査状況として平成23年以降の妊婦100名の尿検査・浮腫のデータ分析。池添氏からは乳腺炎33例の原因菌などのデータや乳腺炎を治す手技、乳汁貯留腫の事例報告。眞鍋氏からはぽっこ助産院の搬送事例の報告と産後ケア事業の報告、「おいでま〜い！赤ちゃんプログラム」の紹介や分娩や産後に施すツボについて。松本氏からは松本助産院の歩みや、おっぱい体操や授乳姿勢の具体的指導の仕方など、多くの経験を踏まえた内容でした。開業助産師としての責任と、ひとつひとつのケースを大切に、持てる技術を発揮し対応されている様子が伺え、自分自身のケアを振り返る良い機会となりました。常々、自分の技術を高めたいと思ってはいるものの“技”に関してはいくら本を読んでも得られない知識が多くあります。先輩助産師は身近にある宝庫でその“技”を凶々しくも貪欲に奪い取りたい…誤）譲り受けたいものです。そして、また次へと繋いでいかなければいけないと感じた研修でした。



『鶴子のひとりごと』発刊のお知らせ

この度、先輩の林鶴子先生が随筆集を出版されました。林先生の穏やかで温かいお人柄が滲み出た、読んでいてほっと心が温まる読み物です。ぜひご一読ください。



